

ざいけつつみ  
**在家堤** ～美しい景観は地元の宝～

田面木地区にある「在家堤」について、田面木地区連合町内会の三浦和寿<sup>みうらかずとし</sup>会長、田面木小学校同窓会田中稔<sup>たなかみのる</sup>前会長にお話を伺いました。

○「在家堤」とは

国道104号線と八戸三沢線の交差点(田面木交差点)にある堤です。堤の中央には、松の木を配した小さな島があり、太鼓橋で渡ることができます。元々は、田んぼに水を引くための調整池のようなもので、江戸時代のころから、何度か工事が行われてきたようです。

○「在家堤」のいわれについて

最近では、「田面木堤」という人もいますが、昔から「在家堤」と呼ばれていました。いわれについては諸説ありますが、昔、堤のある辺りが、「在家」と呼ばれていた<sup>じゃあいけ</sup>ので、「在家堤」となったというのが一般的です。

○美しい景観

「在家堤」は、昭和63年に、第2回「八戸市景観賞」を受賞、平成4年には、八戸観光協会の「八戸百景」に選ばれました。

春、青空を背景に松の緑と桜が水面に映りこむ姿は、格別です。また、島には、竜のモニュメントがあり、夏には、口から水を吐き出し、通る人の目を楽しませています。

○地域で守る地元の宝

田んぼに水を引くという役目は終わった堤ですが、この美しい景観を地元の宝として守っていくために、毎年、

連合町内会を中心に太鼓橋の補修、島の草刈り、桜や雑木の剪定、竜<sup>せん</sup>から水を吐き出すポンプの管理など、環境整備を行っています。

○今後について

堤では、鯉や亀、春にはカルガモの親子の姿を見ることができます。しかし、最近では、カラスの影響でその姿を見ることが少なくなってきました。こうした生き物の保護も課題の1つとなっています。

連合町内会を中心に地域みんなでこの地元の宝を守っていく活動を続けていきたいと思えます。

皆さん、是非田面木の「在家堤」を見にきてください。



在家堤